



長野県林業総合センター

塩尻市片丘 5739

Nagano-prefectural Forestry Research Center

TEL 0263-52-0600

FAX 0263-51-1311

## コスカシバ

キーワード：コスカシバ、サクラ、穿孔性害虫

サクラやウメが枯れる原因には、いろいろなものがありますが、幹から虫糞と寒天状のヤニが吹き出している場合は、コスカシバによる被害です。

### コスカシバ

成虫はハチのように透明な翅<sup>はね</sup>を持つガで、赤みを帯びた淡黄白色の幼虫が、サクラ、モモなどの幹や枝を穿孔加害します。

成虫の発生は年1回ですが、その発生期間は極めて長く、本県では5月下旬から10月中旬頃まで続きます。

成虫は、樹皮の割れ目や傷口に産卵します。産卵部位は地上高1m程度の樹幹に多くみられ、樹皮のなめらかな品種は、産卵に不適のため被害が少ない傾向があります。幼虫は、ふ化後すぐに樹皮下に穿孔して形成層を食害します。穿孔した幼虫は樹皮下で越冬し、翌春3月ごろ再び食害した後、樹皮下で蛹化して羽化します。



コスカシバに穿孔されたサクラ  
寒天状のヤニと虫糞がみられる

### コスカシバによる被害

加害された立木は、形成層を食害されるため、樹勢が衰弱するとともに樹皮が荒れて、さらに寄生を受けやすくなり、被害が増加して枯死する場合があります。また、幼虫が穿孔加害した部分から胴枯病菌などが侵入し、腐朽性病害の原因にもなります。

サクラの接ぎ木を行ったとき、接いだ箇所産卵穿孔して活着を阻害することもあります。

### コスカシバの防除方法

被害をうけた立木は、樹勢が衰弱し枯死する場合がありますため、次のような防除を行います。

1. 虫糞やヤニが出ている部分（穿入部）を切開し、幼虫を捕殺する。なお、切開した部分には、トップジン M ペーストを塗布する。
2. 成虫発生期の6～9月にかけて、スミパイン乳剤 200 倍液を地際から 2 m 程度の樹幹に 3、4 回散布する。
3. 果樹栽培などで実用化されている性フェロモン剤を利用して成虫雌雄の交信を攪乱し、交尾・産卵を阻害する方法があり、この方法は3年程度連続して行うと被害が減少する。

使用方法：4月下旬にスカシバコン（性フェロモンを封入したチューブ）を日陰の小枝（地上高 1.5m 程度）に軽く巻きつける。施用量は 10a 当たり 50～150 本とする。

担当者 育林部 岡田充弘